

平成 26 年度

事業所名：あお空グループホーム釜石

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100047
法人名	有限会社 介護施設あお空
事業所名	あお空グループホーム釜石
所在地	釜石市片岸町2-13-28
自己評価作成日	平成 27年 1月 5 日
評価結果市町村受理日	平成27年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0391100047-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

指示される前に自分から気づいて行動する姿勢を評価し、ミスを責めることなく自主性を成長させて行く方針で行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能施設・高齢者賃貸住宅・グループホームが併設されており、共有する広い交流スペースはそれぞれの利用者が食事を共にしながらレクリエーションなどを通じて日常的に交流できる解放感にあふれた場となっている。震災から時間の経過とともに地域のコミュニティ活動も復活しつつあり、小学生や保育園児・地域住民との交流の輪も広がり「笑顔で楽しく」の介護理念も生活の場面で多く見られるようになっている。また災害時における地域住民の避難場所に指定されており、非常用品の備蓄について行政との連携が図られている。職員は、利用者の担当制をとり、利用者の思いを把握し、より叶えることのできるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 26 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に意見を出してもらい共通理念を考え統一した考えのもとでサービス提供をおこなう	会社の理念・方針を基に全職員の意見を参考にホーム独自の理念を「笑顔で楽しく」と定め、交流スペースに掲示し意識しながら支援の振り返りをしている。レクリエーション・買い物・入浴時に笑顔が多く見られるとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者を通して地域の方と交流する機会が少しずつ増えてきている	地区の敬老会に招かれたほか小学生・保育園児の訪問、地域祭りの復活に伴い神楽や虎舞の慰問、近隣から野菜の差入れもあり地域の生活の安定とともに交流の輪が徐々に広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	改めて地域の集会などに出向き活動はしていないが、相談などは受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族に事業所のサービス評価をしてもらっている。	地域の代表者や行政関係者等との情報交換や情報提供が行われ、日常的な交流の困難な立地にあつて、委員の人脈を活かし利用者と住民との交流・行事開催の橋渡しとして意見を頂きながら運営に活かしている。	集落の分散等様々な要因により、定期的な開催できないでいたが開催時の話し合いは建設的意見が出されている。今後、委員の再検討・開催方法の工夫・回数も重ねて、定着するよう望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括で主催する連絡会議に毎回参加している。	運営推進会議や地域ケア会議を通じて情報交換がなされ、生活保護・成年後見・自立支援事業などの活用見込みの利用者もあり連携は密に行われている。なお当施設は災害時の地域住民の避難場所となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は行われていない	身体拘束のマニュアルを参考に話し合いながら拘束のないケアに努めている。帰宅願望のある利用者への外出同行支援や言葉による抑制も含め全職員が統一できるように話し合いや研修を重ねていきたいとしている。	見守り体制やスピーチロックの再確認として指針や行動基準等の作成や住民や近隣店舗の協力依頼も含め、身体拘束について更に理解を深められるような取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束0の手引きを活用し内部研修に取り入れている		

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護1名、成年後見1名の利用手続きを進めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施できている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出席者の方より意見をいただいて運営に反映させるよう努力している	利用者の意見は担当職員が、家族からは運営推進会議や面会時に聞いており、食事内容の見直しや医療受診支援の要望に応えている。疎縁・遠方の家族の意見把握が困難でありでホーム便りを通じて情報提供を行いながら意見・要望が出やすいようにしていきたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや全体の会議の中で意見の集約を図っている。	管理者は毎日のミーティングや送りノートを参考に職員の意見・提言を把握し運営に活かしている。チルド、冷凍食品中心の献立から手づくりとするにあたり職員増員希望を代表者会議や本部に図り職員体制の充実に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善に向けて少しずつ取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は多くの職員を参加させることができた		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換、相談は密にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク段階での失敗は後の関係に大きく影響を与えるので特に注意をはらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人のニーズと家族のニーズは必ずしも一致していない場合が多いので確認作業は、必須と考えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わない場合もあるので、他の事業所との連絡、調整に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人および家族の持つ資源活用を考慮し取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間にゆとりのある家族には施設に積極的に出向いて頂き交流するようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊の支援を実施している	風景や馴染みの多くの場所が様変わりし、親戚・知人との関係も疎遠な利用者が多い状況の中で、自宅周辺へのドライブや買い物の支援がなされている。また親戚や友人が訪れたり、外泊や知人の支援で外出を楽しんでいる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個室化により閉じこもり防止に配慮している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて取り組んでいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で意向を聞き把握するようにしている。	利用者の担当職員を定めて日頃の会話や表情態度から思いの把握に努めている。できるだけ対一の時間を大切にしている。家に帰りたいとの思いが強い利用者には、一時帰宅や集落周辺ドライブなどの支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独居の方が増加し生活歴の情報取得が困難になりつつあり、今後も様々な工夫が必要になっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で常に見守りを行い異変があればすぐに対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリング、アセスメントを行い状況を把握するようにしている	担当職員が中心となりモニタリング、アセスメントを行い看護師や計画作成担当者の意見と合わせて計画作成している。ADLに重心がおかれた計画が多く、生きがいや日々の暮らし方も再確認しながら多面的な計画作成に繋げたいとしている。	本人と信頼関係を築きながら支援している担当職員が計画作成にも関わっており、汲み取った思いや意向等を計画へ反映できるよう、一人ひとりが「笑顔で楽しい」生活ができる計画の作成を更に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記入出来ているが、ケアへの実践、結果を記入し情報の共有はできていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の機能を見て出来る事は直ぐに対応することを旨としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の実状をみながら今後も関係構築に努めて行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望を聴き柔軟に受診の支援をしている	医療受診は原則家族対応としているが、現在は職員の支援が多く利用者5名の通院支援となっている。また4名の利用者は訪問診療を受け、職員・看護師と主治医との連絡は密になされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院への受診対応、健康管理の実施。重度化した方への訪問診療の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談室、病棟看護師と常に連携を図り今後の方針を家族と相談して取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、訪問診療と連携の取れる方については、看取りの体制を実施予定である	現在は病気・重度化した場合は医療機関に繋げている。終の棲家を希望する利用者・家族とは十分話し合いながら今後看取りの体制も考慮したいとしている。医療機関の夜間・休日の診療体制も良く前向きに看取り体制を整えたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成して利用したり、カンファレンスをして対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設のある場所が地域の避難場所となっている	消防署の指導のもとに火災想定避難訓練を行い課題の把握ができ、今後夜間想定訓練にも取り組む予定である。事業所周辺が災害時における地域住民の避難場所に指定されており非常用品の備蓄についても行政と連携している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重の意味を理解して丁寧な声掛けを心掛けている。	利用者は人生の先輩であることを肝に命じて利用者と信頼関係を大切にしながら言葉かけには特に気を配るようにしている。入浴や排泄介助では努めて同性介助とし羞恥心に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で思いや希望を聞いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に行いたいことは自己決定してもらい利用者様のペースで過ごして頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣を選ぶ際利用者様に自己決定してもらい利用者様の意見を尊重している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は職員が行うが食後の下膳やテーブル拭きなどを一緒に行っている。	冷凍食品中心から、家庭菜園や差入れの野菜を取り入れ調理の音・匂い香りの漂う一部手作りによる献立に移行しつつある。利用者から要望の多いめん類、さしみは行事食に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の希望にて小盛りや大盛りなど栄養バランス内で調整している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔清拭の声掛け、一部介助を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿時間を記録し失禁前にトイレ誘導おこなっている。	利用者の排泄パターンを把握し声がけ誘導で多くの利用者はトイレでの排泄ができている。失禁不安解消のため夜間のみポータブル等利用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をとり適度な運動や水分補給を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが利用者様の体調、気分により時間帯や日にちをずらして入浴している。	浴槽は檜でゆったりとした広さの個浴である。入浴頻度は週2回程度となっているが体調や気分を考慮し時間帯や回数は利用者の希望を優先している。就寝前の入浴を習慣とする利用者もいて柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中においても自由に居室で休まれたりしてもらっている。夜間も完全消灯を設けず状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師のみに任せず服薬内容もカルテにはさみ常に症状の変化に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に料理をしたり、掃除をしたり、ゆっくりテレビを見たり、話をしたり、したいことを無理なく楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員決めコミュニケーションをとりながら対応している	担当職員を中心に利用者の思いや希望を聞きながらドライブを兼ねて近隣の名勝地や自宅周辺集落巡りをしている。また買い物好きな利用者が多く、新聞折り込み広告を見ながら希望者を募り出かけられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力を見極めて本人、家人承諾の元所持管理をさせている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できるようにしている。携帯電話を所持している方も何名かいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは月に一度季節感のある装飾に変えている。その他温度管理も空調にて過ごしやすい温度に保っている。	集いの広場は小規模多機能利用者との交流の場でもあり、食事やみずきだんご飾りに取り組み笑顔で三々五々集っている。利用者の手がけた染物や行事の写真が要所要所に飾られるなどホットスペースとなるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面(建物構造)は十分なスペースを確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の趣味、趣好を聴きできるだけ取り入れている。	居室は収納棚・ベッド・洗面台が備付けられている。冷蔵庫・テレビなど家具を持ち込み個室での時間を楽しむ利用者や主に寝室としている方など各利用者や家族の好み意向を大切にしている。個室入口に飾られた職員手づくりの手芸品は入室時に心が和まされ職員の気配りが伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、台所は広さを保ち安全に過ごしている。		